

市長記者会見 2011 年 3 月 22 日

[2011 年 3 月 23 日 更新]

【出所】

<http://www.city.matsumoto.nagano.jp/aramasi/sityo/kaiken/teirei20110322/index.html>

【参考】

松本市長の菅谷さんは、ベラルーシで医療支援するとともに、現地の医師に、最先端の治療技術と知識を授け、ベラルーシ共和国から国の最高勲章である「フランシスコ・スカリナー勲章」が 2000 年に授与された。その前の受賞者はロシアのエリツィン前大統領。

-----前半略、以下中途から-----

【記者】

東京電力福島第 1 原子力発電所の事故に起因する、放射能汚染というのが、ほうれん草であるとかクキナであるとかそういったものを出荷停止というような確か報道だったと思いますけれども、そういったようなことも現実的におきてきて、市長が以前お話になっていた土壤汚染というのが現実的なものとなってきたのですが、実際にですね、果たして内部被曝というようなことも市長おっしゃってたのですけれども。

そういったものをですね、はたして食べても安全なのかどうなのかというところが少し心配になってくるのですけれども、市長のチェルノブイリで医療支援活動された経験から、その辺のご見解をもう一度伺えればいいなと思ったのですが。

【市長】

はい、それでは今の記者のご質問ですけれど、私ずっと常々というか最初からこの件に関しては、報道の皆さんにも場合によっては社が違う場合かもしれませんけれども、私の言葉として表現されているのは、とにかく核の事故という、放射線の事故というのは最初からある意味では最悪の事態を想定したかたちで先手、先手として手を打っていく事が大事じゃないかといことは、私が 5 年半の経験をもとに日本に帰ってきてからそう思っておりました。

しかしそういう中でまさかこういう状況になるとは思っておいませんでした。

それは私、皆様のご質問に対しては、一つは 20 キロ口の避難ですけれど、できれば 30 キロまで広げたほうがいいのかないのかなということも申し上げ、あわせて予防的に無機のいわゆるヨード剤を投与しておいたほうがいいのかないのかなということも申し上げましたし、場合によっては避難ではないのですけれど、やはり 50 キロ位、チェルノブイリの場合だと 30 キロゾーンは人が住めないわけですが、チェルノブイリと同じにしてはいけないのですけれど、そしてできれば 50 キロ位までの範囲っていうのは注意したほうがいいのかないかなと。それくらい

やはりいわゆる大気汚染が広がるよということを申し上げたところでございます。

それからまた特に乳幼児とか妊産婦に対してはヨード剤の予防投与ということは、これはまさに内部被曝の問題なんですよということを申し上げきたんですね。

どうしても政府を含めて皆さん方は外部被曝のことだけを取り上げているので、そうではなくて皆さん3つの点に注意してください。

一つはマスクをしてください。なぜマスクをするかというと、汚染されていて、これに浮遊している放射性の降下物が鼻から気道ですね、気管をとおして肺に入ってそれが吸収されて血液の中に入って体に蓄積されるということですね。

それから二つ目は肌は露出してはいけないということ。これは皮膚からですよ。いわゆる吸収されて体の中に入っちゃいけない。

もう一つは口から入ってということ、この三つなんですね。

ですから経気道的、経皮、皮膚ですね、それからもう一つは経口的なんですよ。この三つが経路になっているんです。

ですからできるだけここに取り込まないようにってことを言っているのです。

取り込まれたらどうなるかっていうと、その放射性物質が放射性ヨードであり、セシウムであり、ストロンチウムであり、プルトニウムであって、それらが入ると大変なことになりますよ。

これは今じゃなくって5年、10年、30年セシウムとかストロンチウムの半減期が30年ですから、放射性ヨードの半減期は1週間ですけれども、そういうようにですね、取り込まないようにって言うにもかかわらず、今回のようにですねほうれん草ならほうれん草に、今度はシーベルトからベクレルってキュリーです。

皆さん良く知っているキュリー夫人のキュリーです。いわゆる放射能の強さを表すのですけれども、今回のほうれん草の場合でも日本の基準で2000ベクレル/キロですよ。/リッターという事という倍になっていて、そういうなかでもってそれを要するに食べてもいいかって言われたら、語弊がありますが、できるだけ口にしないほうがいいだろうっていうのは、これは現地行った者としては、本当に言いたいのは子ども達やあるいは妊産婦、胎児の命を守るという意味でいったら5年とか10年、チェルノブイリでもって甲状腺がんの子どもが増えたのが5年後なんですよ。

5年後から出てきているんですよ急激に。そしてその事故前の時の子どもの発症率というのは100万人に1人か2人でこれはチェルノブイリのとこも同じなんですよ。

それが汚染地になるとそれが100倍になったり、ひどい時には130倍ですね、ゴメリ市なんか。

だから将来のことを考えれば、これは本当に申し訳ないけれど、作っている方々に。しかしこれはそんな事を言っても色々ありますけれど、風評ではなくて事実として、これはやはり押さえておかなければいけないと私は思って、パニックでなくて国民も冷静に聞いてくれて、そして今

の時期は食も少しひかえてもらうということ、そのためにも早くに放射性ヨードをやらないと、もう入ってしまったら終わりなのです。

私はですから前から予防適応しておいた方がいいですよって、みんな今政府においては後手後手ですよ。

避難している人たちも放射性ヨードっていうけれど、もう避難しているわけですから、避難中に被曝して入ってしまえばいくら後でやっても遅いのです。

そういう事がちっともわかっていないってことが、きわめて残念だってことを申し上げたいですね。

ですから原発のあそこの今の状況は、是非ともこれは国をあげ、それから海外の力を借りてあそこをとにかく消火する。

外に放射性物質を出さないってことは最大限やってほしいのだけれど、私はもう一つもう一番最悪であった**土壌汚染**ということは、これまさに環境汚染。水も汚染ですしそれから食物も汚染、これ出てしまったんですね。

ですから次は**経路汚染**、経口的になるからだから取り込まないようにするってことは当たり前のことなんですけれど、それが抜けちゃっていることで「安心、安心」って放射線1回浴びることは、そんな問題ではないですよ。

あれは外部被曝なんですよ。皆さんだって検査された時にエックス線浴びるわけですよ。それは1回だけですよ。そうじゃないんです。入ったものは沈着して抜けない、そして今やこれからのことは、いわゆる放射能沈着という表現しますけれども、放射線降下物、フォールアウトですから、今舞っているのが下に降りますから、落ちると土壌が汚染されます。

当然土壌とそれから水だって汚染されます。一方で葉物ですよ。葉っぱの上にやはり降下するわけじゃないですか放射性物質が。で、それを牛や羊が食べるわけじゃないですか。そうするとそれが放射性物質が今度はお乳の中にでるわけですよ。

そのお乳を人間が飲むわけですよ。これがいわゆる食物連鎖というわけですよ。

またその土壌の中に落ちたというようになると、そういう食べた牛やヤギが糞とかおしっこを出します。ここに放射性物質が溜まりますから、それがまた地面、土壌を汚染するこれ悪循環、これ食物連鎖やってるわけです。

また汚染された土壌からは今度セシウムのような物がですね。今度は葉物じゃなくてようするに根菜類ですかね。根からまた吸収されますから、特にセシウムなどは消化管からほとんどが吸収されるってこともわかっているわけですから、それから放射線なら甲状腺に集まってしまうわけですから、ですからそういうことが事実としてとらえてですね、やはり報道していくのは国からもいかないと、単に「冷静に行動してください」とか、なんと申しますかね数的なもので被曝がこうじゃなくて5年、10年日本でやはり、だからもし将来ですね、わかりませんけれど

悪性の新生物が日本で増えてきたような状況の時にはいったい誰が責任とるのでしょうかね。

だからそういう意味で今言ったように、できるだけ放射性物質を体に取り込まないような注意をお互いにしていったほうがいいのではないかな、というようなことであります。

そういう意味でも今後全国でも食品に対しては多分汚染の状況をチェックしてくださいという言葉がいろいろ出てくると思います。

心配ないものは本当に食べていいです。私自身は汚染地でジャガイモを食べたり人参食べたり玉ねぎ食べたりやってきていますけれども、できれば大人はまだいいですけれども、これから生まれてくる子どもや、あるいは小さい子供というのはそういうことの無いようなことをしてあげなければいけない。

そこで放射能の許容レベルは、先ほど記者が言われたように、これは許容レベルというのはあるんですけれども。

例えば事故の時にポーランドでは、事故から4日目なんですけれども、国の命令ですよ。それで乳牛に新鮮な牧草を与えることを全国的に禁止しているんですよ。

それから100ベクレル/リッターということは100ベクレル/キログラム以上の汚染ミルクを子どもやあるいはまた妊娠、授乳中の子どもが飲むことを禁止しているとか、4歳以下の子供は原則として粉ミルクを飲ませる。

この時は急きよ粉ミルク不足の分はオランダから緊急輸入をしている。

それから子どもや妊娠、授乳中の女性はできるだけ新鮮な葉菜類、葉物は摂取を控えるように指示している。こういうふうに対策をとったんですね。

ですから今回の場合に、これが1000ベクレルですから、ほうれん草なんか4000ベクレルですから、そういう意味では、やはり残念だけれども、特に生産者は本当に気の毒ですけれども、子どもたちの命、将来のことを考えれば、この場合は政府が最大限に保証してあげるということで、しばらく汚染の状況が安全のところまで行くまでは、それはミルクもそうですね。

これは1987年ということで、1986年が原発の年ですけど、1987年ヨーロッパの食品の放射能の限度というか安全許容量を出しているのが、有名なネイチャーという雑誌に出ているんですけども、これは乳製品だと、これはバターとかミルクとかチーズとかアイスクリームとかはセシウムは1000なんですね。ヨウ素が500なんです。ストロンチウムが500、プルトニウムが20ベクレル/キログラムです。

乳製品以外の食品というものがあまして、これはそれ以外のものですね。これがセシウムが1250、ヨウ素が3000、ストロンチウムが3000、プルトニウムが80。

それから飲料水がセシウムが800、ヨウ素が400、ストロンチウムが400、プルトニウムが10ということで。

また家畜の飼料は、セシウムが 2500 と、このように一応基準は設けてあります。

多分これに準じて日本の場合もこうやってあるんだろうと思いますが、きちっとしたものは無いんですけれどね。

各国違います。しかし大体この一つの基準というのはあるわけで、どれがいい、どれが悪いんじゃないで、ご承知の通りチェルノブイリだってあそこの 30 キロゾーンでなくて 100 キロ以上離れたところで、ホットスポットって言いまして、ある場合には雨の状況で、日本は雪ですけれど、それによってはフォールアウトが、ある所に集中的にポンポンと点状に落ちる。だからそういう所で生産されたものというのは当然汚染されるわけです。

そういう意味で今回私も意外だったのは、茨城の方で高濃度って何故かって、これは当然大気汚染であちこちに汚染された大気があるわけですから、その中に雨が降って雨の粒の中に、私が前に言ったように「雨とか雪は注意した方がいいですよ」と言ったら、雪が降ってしまいましたけれど、そういうのはやはり放射性降下物も含まれて落ちるわけですから。

そういう所、残念ですけれど、そういう所の場合は可能性はあるということ、一応私は、皆さんをパニックではなくて「こういう事実がありますよ」ということを知っておいてもらった上で冷静に対応してもらって、こういう表現をしていかないと、ただ単にエックス線で当てて 1 回でこうだとか、そういう外部被曝のことを言われるので、これは私は、もしかしたら菅総理大臣が自ら国民に向かって「こうなんだ」って、とにかく子ども達や、あるいは妊産婦を含め胎児たちの命を守るんだと、将来のことを考えて、ということと言わないと、私はいけないと思っております。

これは誤解なきように、皆さん方ある言葉だけを出されますから誤解されて、私いつも言われてしまうんですけれど、そうではなくて、もし心配だったら全部出してください。

そうでなかったら出さないでください。それくらいの私は皆さんに今、私自身がチェルノブイリで経験したことをお話ししているわけですから、決して政府を批判ではないんですけれど、事実としてとらえてほしい、しかも国民の皆さんは落ち着いてくださいと、こういう事があるけれども、安心なものは食べていいですからということで私は申し上げております。

私自身も 5 年も汚染地で向こうの人と同じものを食べてきたわけです。

だから、実際に言えるのは甲状腺のガンに関して放射性ヨウ素がこんなに高いのに、昨日の長野県の、今日の報道を見ていますと、その 4000 ベクレルじゃないですけれども「ほうれん草を洗わないで 500 グラム食べても安全だ」というそういう県からもしメッセージを出しているようでしたら、報道を見た限りですけれど、これが事実であれば大変な事を言っているなどということで、やはり相談にのる人も慎重な答をしていかないと、安心安全と言っても新聞の社説によっては、安心安全冷静ということは、もっと具体的に出してもらわないと私わかりませんよというのは、私はあの通りだと思うんです。

内部被曝の問題は一切出してないし、食物連鎖の話も一切出してないです。

しかも5年10年先のこと出してないですね。

私はそういうことも出していかないと、国民がうんと不安に思うから、敢えて今日は申しあげたところでございます。

是非とも報道の皆さんも、ある意味では刺激的なタイトルで出す。それはやめてください。私は事実を申し上げただけでございます。

皆さん、全部出してください。出さないから、そこだけ取っちゃうから読んだ市民が非常に不安になるから、今日お願いしたいのは書けないんだったら出さないでほしいということ、皆さんの中でご理解いただきたいとこのように思っております。以上です。

【広報国際課長】

他にあるでしょうか。よろしいですか。以上で記者会見を終了させていただきます。

【市長】

ありがとうございました。